

文化芸術の振興に関するアンケート調査の結果概要（速報）

(1) 実施した調査の概要

文化芸術への意識に関するアンケート調査

- ・調査対象：無作為抽出した18歳以上の県民3,000人
- ・調査方法：アンケート調査票による書面調査（ネット回答可）
- ・調査期間：令和6年6月18日～7月12日
- ・回収率：40.2%（1,206人）

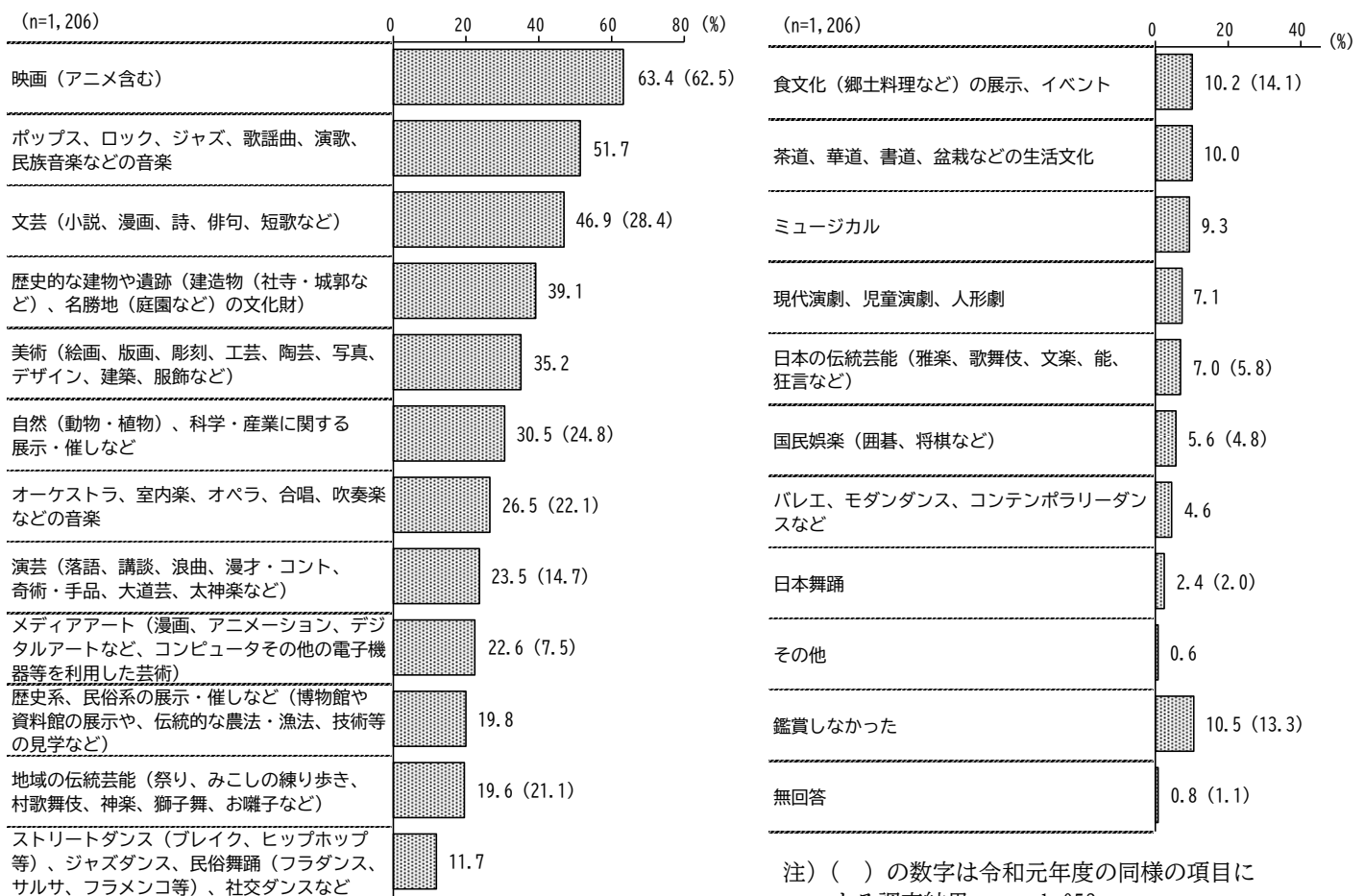
【参考】前回調査時（令和元年度）

- ・調査対象、方法は今回調査と同様
- ・調査期間：令和元年9月10日～10月15日
- ・回収率：35.1%（1,052人）

(2) 調査結果の解説

①昨年度に鑑賞した文化芸術

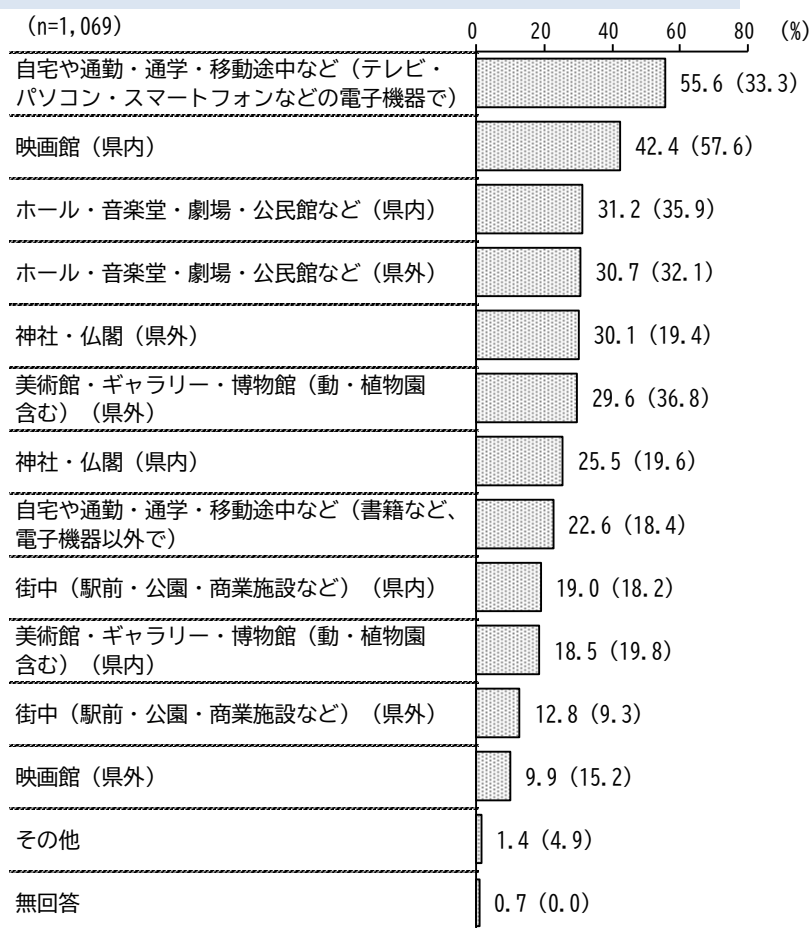
- ・昨年度に鑑賞した文化芸術を聞いたところ、「映画（アニメ含む）」が63.4%、以下「ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽などの音楽」51.7%、「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」46.9%となっている。
- ・一方で、「鑑賞しなかった」が10.5%だった。（前回：13.3%）



②文化芸術を鑑賞した場所

・「昨年度に鑑賞した方」1,069 人を対象に、鑑賞した場所を聞いたところ、「自宅や通勤・通学・移動途中など（テレビ・パソコン・スマートフォンなどの電子機器で）」が 55.6%で最も高く、以下「映画館（県内）」42.4%、「ホール・音楽堂・劇場・公民館など（県内）」31.2%、「ホール・音楽堂・劇場・公民館など（県外）」30.7%、「神社・仏閣（県外）」30.1%、「美術館・ギャラリー・博物館（動・植物園含む）（県外）」29.6%となっている。

また、「映画館」は『県内』が『県外』に比べ約 33 ポイント高く、「美術館・ギャラリー・博物館（動・植物園含む）」は『県内』が『県外』に比べ約 11 ポイント低い。



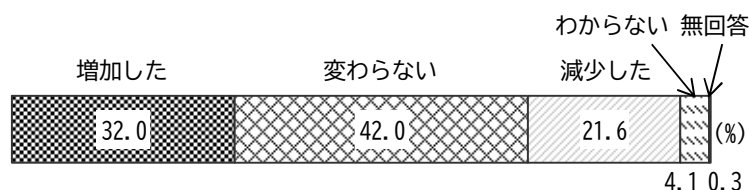
注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=900

③コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減、変化

- ・コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減を聞いたところ、「増加した」が 32.0%、「減少した」が 21.6%、また「変わらない」が 42.0%となっている。
- ・性・年代別でみると、「増加した」は、女性の 20 代が 53.7%で高くなっている。
- ・コロナ禍前と比べた鑑賞についての変化について聞いたところ、「自宅での鑑賞が増えた」が 187 件で最も多く、以下「人混みは避けるようになった」(68 件)、「インターネットで鑑賞することが増えた」(47 件)、「鑑賞したい／行ける時に行きたいという気持ちになった」(37 件)が続く。

<図表>コロナ禍前と比べた鑑賞頻度の増減

(n=1,069)



<図表>コロナ禍前と比べた鑑賞についての変化（自由記述）※上位 5 位まで抜粋

順位	内容	件数
第 1 位	自宅での鑑賞が増えた	187
第 2 位	人混みは避けるようになった	68
第 3 位	インターネットで鑑賞することが増えた	47
第 4 位	鑑賞したい／行ける時に行きたいという気持ちになった	37
第 5 位	外出して鑑賞することが少なくなった	34
〃	鑑賞に出かける頻度が増えた	34

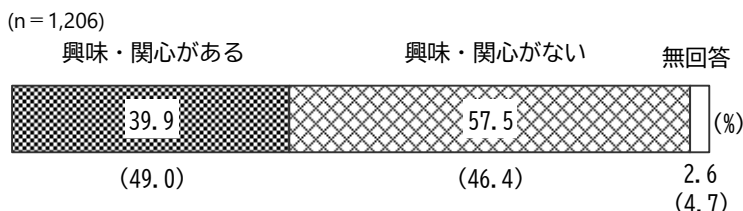
④文化芸術活動を行うことへの興味・関心、行っていない理由

・文化芸術活動を自分で行う（活動すること）への興味・関心を聞いたところ、「興味・関心がある」が39.9%となり、一方で「興味・関心がない」は57.5%となっている。

・文化芸術活動を行うことに興味のある方が約4割いるが、そのうち5割台半ばの方が活動をしておらず、その理由として「仕事・育児・介護等で忙しく参加できない」が最も多く、次いで「自分の都合のよい日時に実施されていない」、「活動に関する情報が得られない」だった。

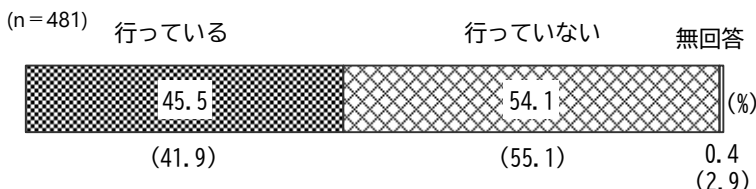
・文化芸術活動を行うことに興味・関心がない方は約6割となり、前回調査よりも増加した（前回：4割台半ば）

＜図表＞文化芸術活動を行うことへの興味・関心



注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n = 1,052

＜図表＞文化芸術活動の実施の有無

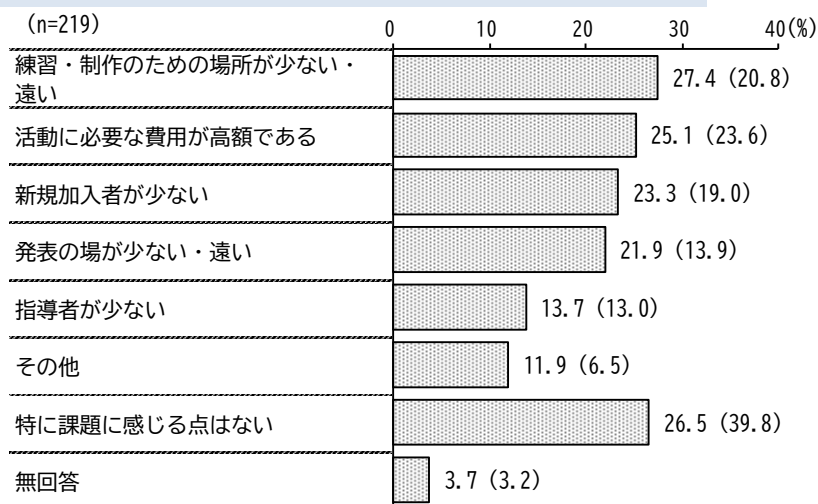


注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n = 515

⑤文化芸術活動を行う際の課題

・文化芸術活動を行う際に課題と感じる点を聞いたところ、「練習・制作のための場所が少ない・遠い」が27.4%で最も高く、以下「活動に必要な費用が高額である」25.1%、「新規加入者が少ない」23.3%、「発表の場が少ない・遠い」21.9%が続く。

注) () の数字は令和元年度の項目による調査結果
n = 216
令和元年度調査は「不満や不便な点」の回答結果

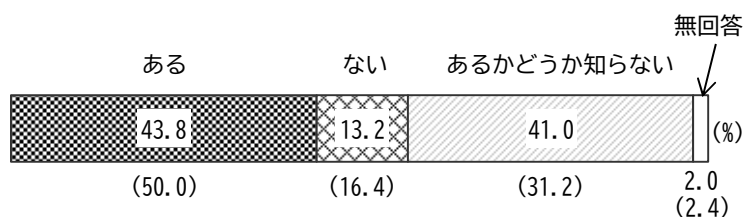


⑥居住地域における継承されている伝統芸能の有無

・お住まいの地域で継承されている伝統芸能があるかを聞いたところ、「ある」が43.8%となっている。また、「あるかどうか知らない」が41.0%となっている。

・地域別にみると、「ある」は、「君津地域」で75.4%と高くなっている。また、回答者数は多くないものの、「安房地域」で92.9%、「夷隅地域」で88.9%、「海匝地域」で77.8%とそれぞれ高くなっている。一方、「あるかどうか知らない」は「千葉地域」で49.8%、「東葛飾地域」で48.2%と、それぞれ高くなっている。

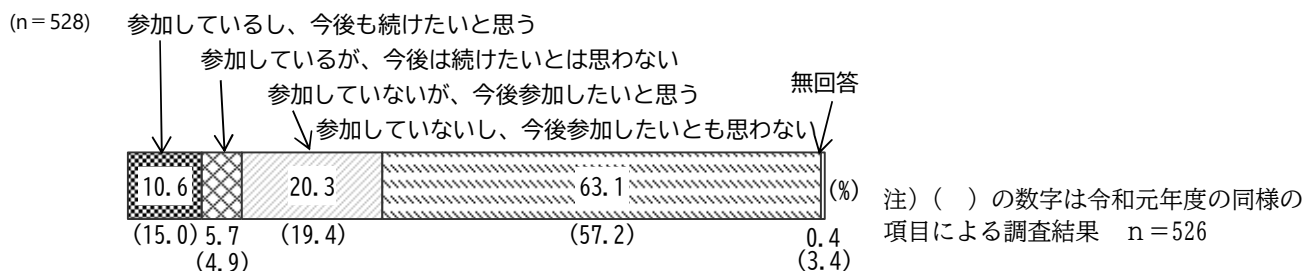
(n=1,206)



注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n = 1,052

⑦居住地域における伝統芸能への参加に関する意向

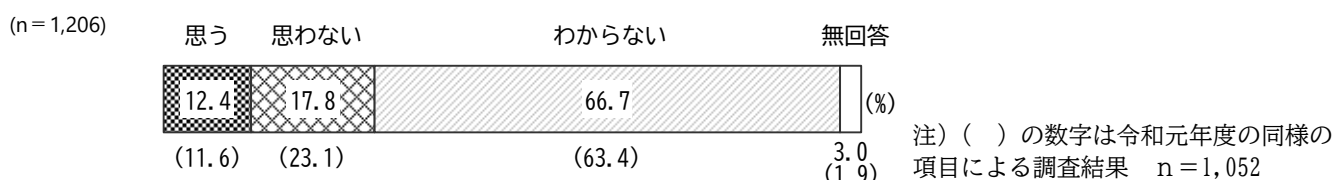
- ・「お住まいの地域で継承されている伝統芸能がある」と回答した 528 人を対象に、担い手として参加の有無と今後の意向を聞いたところ、「参加しているし、今後も続けたいと思う」は 10.6%となっており、一方で、「参加していないし、今後参加したいとも思わない」が 63.1%と最も高くなっている。
- ・地域別にみると、回答数は少ないものの、「参加しているし、今後も続けたいと思う」は“安房地域”が 26.9%で高くなっており、一方で「参加していないし、今後参加したいとも思わない」は、“印旛地域”が 76.4%で高くなっている。



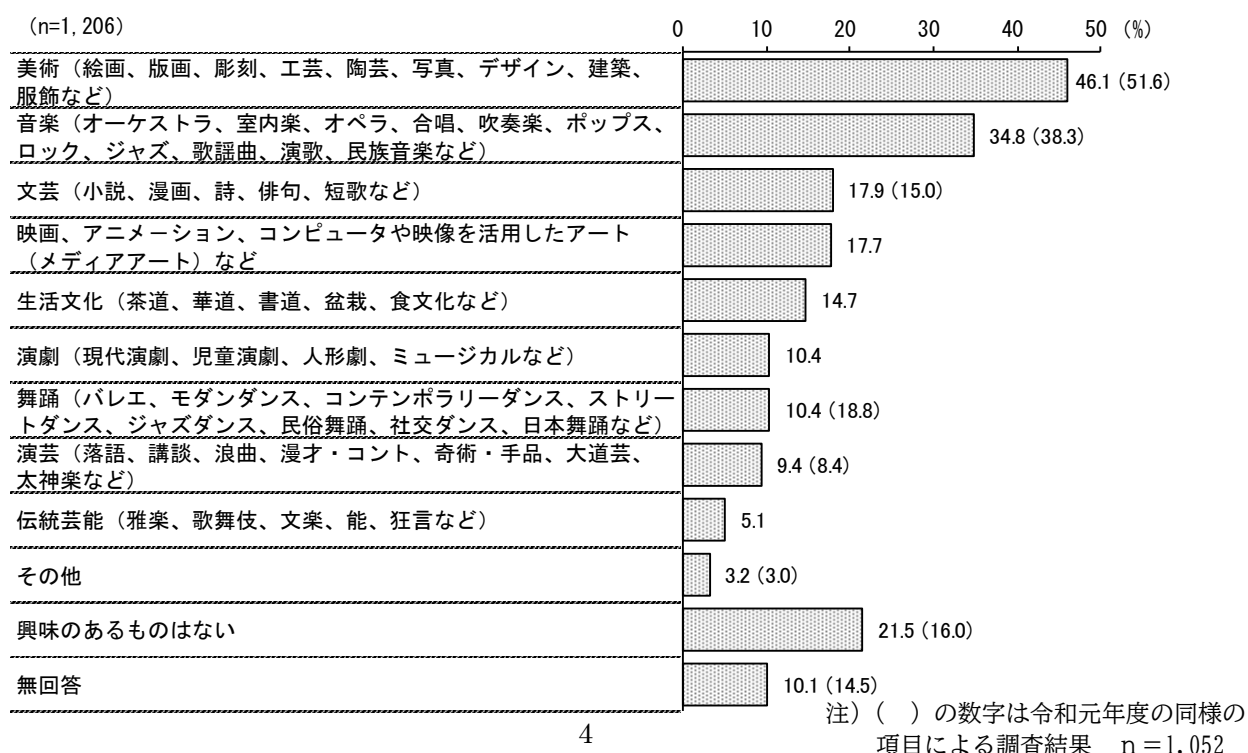
⑧障害がある方の文化芸術活動について

- ・障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できる機会が十分にあると思うかを聞いたところ、「思う」が 12.4%、「思わない」が 17.8%、「わからない」が 66.7%となっている。
- ・障害のある方の文化芸術活動で興味があるものを聞いたところ、「美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、写真、デザイン、建築、服飾など）」が 46.1%で最も高く、以下「音楽（オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽、ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽など）」34.8%、「文芸（小説、漫画、詩、俳句、短歌など）」17.9%、「映画、アニメーション、コンピュータや映像を活用したアート（メディアアート）など」17.7%となっている。

<図表> 障害の有無に関わらず文化芸術活動について鑑賞・参加できる機会



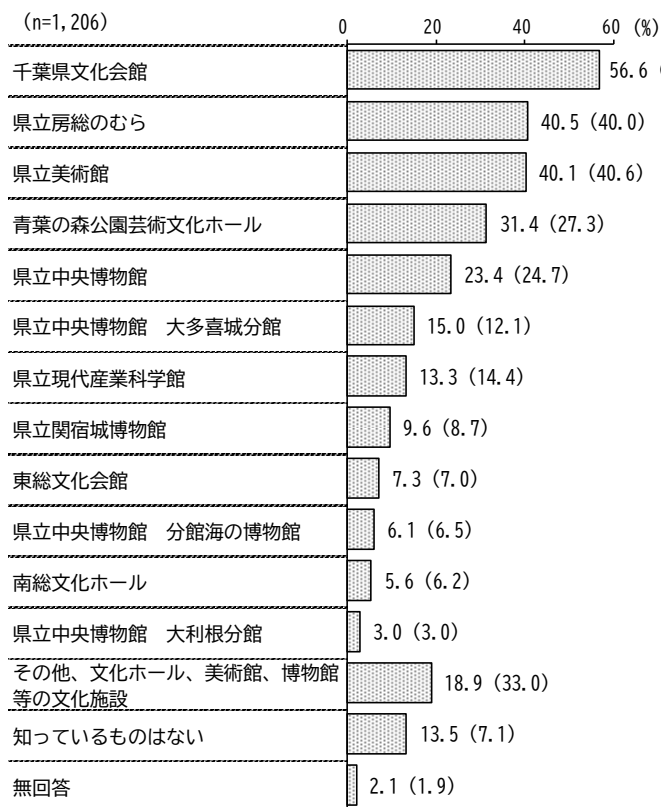
<図表> 障害のある方の文化芸術活動で興味があるもの



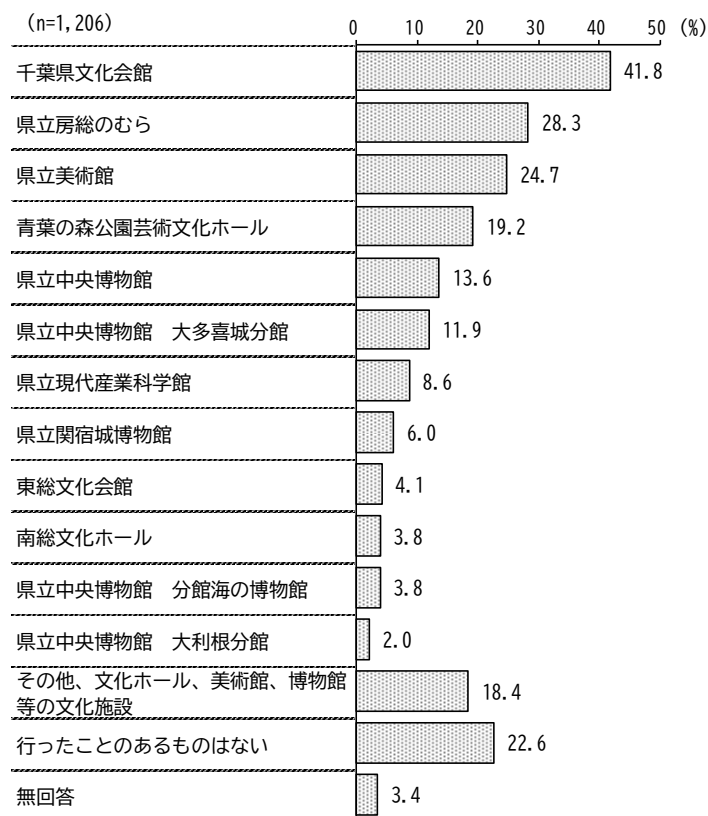
⑨県内文化施設の認知度・訪問度

- ・千葉県内の文化施設で知っているものを聞いたところ、「千葉県文化会館」が56.6%で最も高く、以下「県立房総のむら」40.5%、「県立美術館」40.1%となっている。
- ・千葉県内の文化施設で行ったことがあるものを聞いたところ、「千葉県文化会館」が41.8%で最も高く、以下「県立房総のむら」28.3%、「県立美術館」24.7%となっている。

＜図表＞県内文化施設の認知



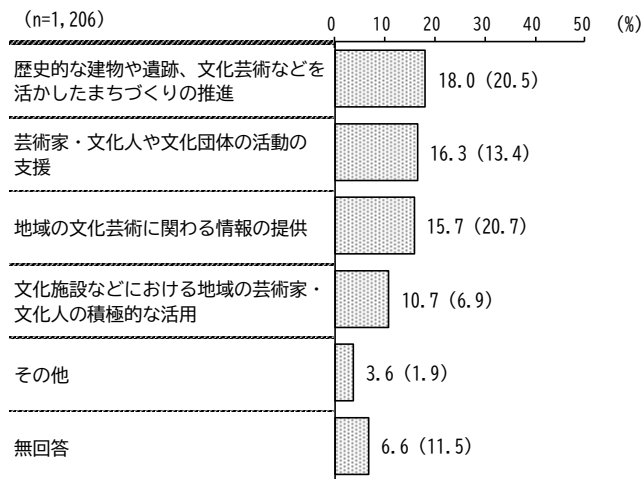
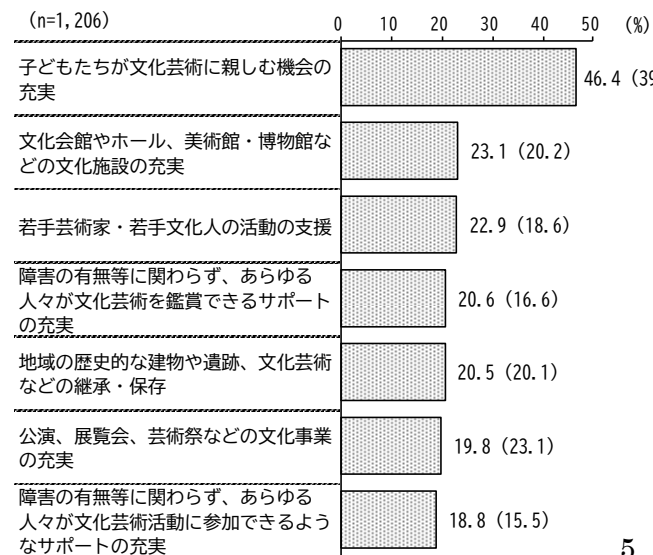
＜図表＞県内文化施設の利用経験



注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n = 1,052

⑩県が積極的に取り組むべき分野

- ・千葉県が積極的に取り組むべき分野を聞いたところ、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が46.4%で最も高く、以下「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」23.1%、「若手芸術家・若手文化人の活動の支援」22.9%、「障害の有無等に関わらず、あらゆる人々が文化芸術を鑑賞できるサポートの充実」20.6%、となっている。
- ・性・年代別でみると、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」は、女性の40代が55.4%と高くなっている。



注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n = 1,052